

## 目 次

<b>PART I 概要</b> .....	<b>3</b>
1. CASBEE 柏の概要 .....	3
2. 環境配慮計画書の作成方法 .....	14
<b>PART II 採点基準</b> .....	<b>32</b>
1. Q 建築物の環境品質 .....	33
2. LR 建築物の環境負荷低減性 .....	120
3. K 柏市の重点項目 .....	190
4. 補助資料 .....	207
<b>PART III 解説</b> .....	<b>227</b>



## PART I 概要

## 1. CASBEE 柏の概要

## 1.1 CASBEE とは

「CASBEE」(建築環境総合性能評価システム)は、建物を環境性能で評価し、格付けする手法である。省エネや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価する。CASBEEによる評価では「Sランク(素晴らしい)」「Aランク(大変良い)」「B+ランク(良い)」「B-ランク(やや劣る)」「Cランク(劣る)」という5段階の格付けが与えられる。

CASBEEは、2001年に国土交通省の主導の下に(財)建築環境・省エネルギー機構内に設置された委員会において開発が進められているもので、2002年には最初の評価ツール「CASBEE-事務所版」が、その後2003年7月に「CASBEE-新築」、2004年7月に「CASBEE-既存」、2005年7月には「CASBEE-改修」が完成した。CASBEEの評価ツールは、①建築物のライフサイクルを通じた評価ができること、②「建築物の環境品質(Q)」と「建築物の環境負荷(L)」の両側面から評価すること、③「環境効率」の考え方をういて新たに開発された評価指標「BEE(建築物の環境効率、Built Environment Efficiency)」で評価する、という3つの理念に基づいて開発された。

CASBEEには、図 I.1.1に示すようなライフサイクルに応じた4つの基本ツールと個別の目的に応じた拡張ツールがある。これらを総称して「CASBEEファミリー」と呼んでいる。

## CASBEE-ファミリー

## 住宅系

CASBEE-すまい(戸建)(Tool-11)

2007年9月完成

## 建築系

## 基本ツール

CASBEE-企画(Tool-0)

開発中

CASBEE-新築(Tool-1)

2002年事務所版完成、2008年改訂

CASBEE-既存(Tool-2)

2004年7月完成、2008年改訂

CASBEE-改修(Tool-3)

2005年7月完成、2008年改訂

HI: Heat Island

CASBEE-HI(Tool-4)

2005年7月完成、2006年改訂

## まちづくり系

CASBEE-まちづくり(Tool-21)

2006年7月完成、2007年改訂

TC: Temporary Construction

CASBEE-短期使用(Tool-1TC)

2004年完成、2008年改訂

B: Brief version

CASBEE-新築(簡易版)(Tool-1B)

2004年7月完成、2008年改訂

CASBEE 柏

CASBEE-まち+建物(Tool-21+)

2007年11月完成

CASBEE-まちづくり(簡易版)(Tool-21B)

2007年11月完成

併用版(標準版+簡易版)

図 I.1.1 CASBEEファミリーの構成

## 1.2 CASBEE 柏とは

CASBEE 柏は、「CASBEE-新築(簡易版)」を柏市の地域特性等を考慮して、構築したものであり、本市の地域特性や政策に合わせて、独自の環境配慮項目や独自の評価基準を加えている。

また、本市が環境に配慮する上で重点を置いている項目に対する取組み度合いを評価することで、より本市の地域性に適した配慮を促すことを目指している。

このCASBEE 柏評価マニュアルは、「CASBEE-新築(簡易版)評価マニュアル(2008年版)」(編集:日本サステナブル・ビルディング・コンソーシアム(JSBC))をベースに、建築物を建築しようとする建築主の、総合的な環境配慮の取組促進及び建築物環境配慮計画書の作成を支援するために作られた。

CASBEE 柏の評価システムは「CASBEE-新築(簡易版)」を基に、以下の特徴をもっている。

◆本市独自の環境配慮基準・解説

本市の条例等に合わせて、「CASBEE-新築(簡易版)」の評価項目の一部について、独自の基準や解説等を加えた。

◆本市独自の環境配慮項目

本市の重点項目「K」を評価するために、「CASBEE-新築(簡易版)」に追加した、独自の評価項目である。重点項目Kの一部で、「CASBEE-新築(簡易版)」の評価結果(「評価結果表示シート①」)には反映されない。

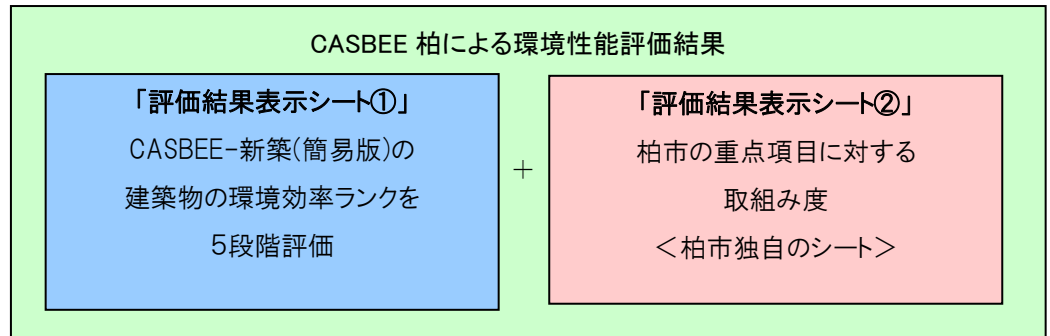
CASBEE 柏の評価には、「CASBEE 柏評価マニュアル(本書)」および「CASBEE 柏評価ソフト」※を利用する。これらは、以下のホームページアドレスからダウンロードできる。

建築指導課ホームページをご覧ください。  
柏市ホームページトップページ画面で、「CASBEE」で検索出来ます。

※マイクロソフト「エクセル」ソフト

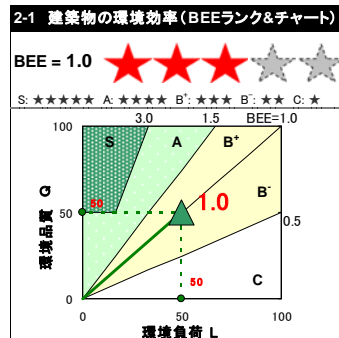
### 1.3 「CASBEE 柏」による評価結果

CASBEE 柏の評価結果は、「CASBEE 柏」評価ソフトから出力される、「評価結果表示シート①」と「評価結果表示シート②」の2つのシートにより表示する。



#### 「評価結果表示シート①」

CASBEE-新築(簡易版)による建築物における総合的な配慮事項への取組み度合いが5段階で表示される。



#### ★の数による5段階評価

ランク	評価	ランク表示
S	素晴らしい	★★★★★
A	大変良い	★★★★★
B <sup>+</sup>	良い	★★★★
B <sup>-</sup>	やや劣る	★★★
C	劣る	★

#### 「評価結果表示シート②」

柏市の重点的な環境配慮事項への取組み度合いが表示される。CASBEE-新築(簡易版)にはない、柏市独自の結果表示シートである。柏の葉の数(5段階)とマスコットキャラクターの「葉っぱー」の表情(すばらしい、ふつう、がんばろうの3段階)で表示される。

2 重点項目への取組み度			
重点項目	取組み度	得点※/満点	評価
K1 地球環境にやさしい社会をつくる		4.1 / 5.0	すばらしい
K2 うるおいのある景観をつくる		3.0 / 5.0	ふつう
K3 安全で健康な生活環境をつくる		2.5 / 5.0	がんばろう

## 1.4 CASBEE 柏の採点項目

表 I.1.1 Q 建築物の環境品質の採点項目

Q 建築物の環境品質			備考
Q1 室内環境			
1 音環境	1.1 騒音	1.1.1 暗騒音レベル	
		1.1.2 設備騒音対策	評価しない
	1.2 遮音	1.2.1 開口部遮音	
		1.2.2 界壁遮音性能	
		1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	
		1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)	
	1.3 吸音		
2 温熱環境	2.1 室温制御	2.1.1 室温設定	
		2.1.2 負荷変動・追従制御性	評価しない
		2.1.3 外皮性能	
		2.1.4 ゾーン別制御性	
		2.1.5 温度・湿度制御	評価しない
		2.1.6 個別制御	評価しない
		2.1.7 時間外空調	評価しない
		2.1.8 監視システム	評価しない
	2.2 湿度制御		
	2.3 空調方式	2.3.1 上下温度差	
2.3.2 平均気流速度			
3 光・視環境	3.1 昼光利用	3.1.1 昼光率	
		3.1.2 方位別開口	
		3.1.3 昼光利用設備	
	3.2 グレア対策	3.2.1 照明器具のグレア	評価しない
		3.2.2 昼光制御	
	3.3 照度	3.3.1 照度	
		3.3.2 照度均斉度	評価しない
	3.4 照明制御		
4 空気質環境	4.1 発生源対策	4.1.1 化学汚染物質	
		4.1.2 アスベスト対策	評価しない
		4.1.3 ダニ・かび等	評価しない
		4.1.4 レジオネラ対策	評価しない
	4.2 換気	4.2.1 換気量	
		4.2.2 自然換気性能	
		4.2.3 取り入れ外気への配慮	
		4.2.4 給気計画	評価しない
	4.3 運用管理	4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視	
		4.3.2 喫煙の制御	
Q2 サービス性能			
1 機能性	1.1 機能性 ・使いやすさ	1.1.1 広さ・収納性	
		1.1.2 高度情報通信設備対応	
		1.1.3 バリアフリー計画	

(2010年版)

Q 建築物の環境品質			備考
	1.2 心理性・快適性	1.2.1 広さ感・景観	
		1.2.2 リフレッシュスペース	
		1.2.3 内装計画	
	1.3 維持管理	1.3.1 維持管理に配慮した設計	
		1.3.2 維持管理用機能の確保	
	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震	2.1.1 耐震性
2.1.2 免震・制振性能			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.2.1 躯体材料の耐用年数	
		2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
		2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
		2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	
		2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	
		2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	
2.3 適切な更新		2.3.1 屋上(屋根)・外壁仕上げ材の更新	評価しない
		2.3.2 配管・配線材の更新	評価しない
		2.3.3 主要設備機器の更新	評価しない
2.4 信頼性		2.4.1 空調・換気設備	
		2.4.2 給排水・衛生設備	
		2.4.3 電気設備	
		2.4.4 機械・配管支持方法	
	2.4.5 通信・情報設備		
3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	3.1.1 階高のゆとり	
		3.1.2 空間の形状・自由さ	
	3.2 荷重のゆとり		
	3.3 設備の更新性	3.3.1 空調配管の更新性	
		3.3.2 給排水管の更新性	
		3.3.3 電気配線の更新性	
		3.3.4 通信配線の更新性	
		3.3.5 設備機器の更新性	
		3.3.6 バックアップスペース	
Q3 室外環境(敷地内)			
1 生物資源の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮			
3 地域性・アメニティへの配慮	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		
	3.2 敷地内温熱環境の向上		

表 I.1.2 LR 建築物の環境負荷低減性の採点項目

LR 建築物の環境負荷低減性			備考	
LR1 エネルギー				
1 建物の熱負荷抑制				
2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用			
	2.2 自然エネルギーの変換利用			
3 設備システムの の高効率化	3.1 空調設備			
	3.2 換気設備			
	3.3 照明設備			
	3.4 給湯設備			
	3.5 昇降機設備			
4 効率的運用	4.1 モニタリング			
	4.2 運用管理体制			
LR2 資源・マテリアル				
1 水資源保護	1.1 節水			
	1.2 雨水利用・ 雑排水再利用	1.2.1 雨水利用システム導入の有無		
		1.2.2 雑排水再利用システム導入の有無		
2 非再生性資源 の使用量削減	2.1 材料使用量の削減			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			
3 汚染物質含有 材料の使用 回避	3.1 有害物質を含まない材料の使用			
	3.2 フロン・ ハロンの回避	3.2.1 消火剤		
		3.2.2 断熱材		
		3.2.3 冷媒		
LR3 敷地外環境				
1 地球温暖化への配慮				
2 地域環境 への配慮	2.1 大気汚染防止			
	2.2 温熱環境悪化の改善			
	2.3 地域 インフラへの 負荷抑制	2.3.1 雨水排水負荷低減		
		2.3.2 汚水処理負荷抑制		
		2.3.3 交通負荷抑制		
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制				
3 周辺環境への 配慮	3.1 騒音 ・振動・悪臭の 防止	3.1.1 騒音		
		3.1.2 振動		
		3.1.3 悪臭		
	3.2 風害,日照 障害の抑制	3.2.1 風害の抑制		
		3.2.2 日照障害の抑制		
	3.3 光害の抑制	3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		
		3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		



表 I.1.3 K 柏市の環境配慮重点項目

K CASBEE 柏の重点項目			備考
K1. 地球環境にやさしい社会をつくる			
1. 省エネ型のまちづくり	1.1 建物の熱負荷抑制		
	1.2 自然エネルギー利用	1.2.1 自然エネルギーの直接利用	
		1.2.2 自然エネルギーの変換利用	
	1.3 設備システムの高効率化		
	1.4 効率的運用	1.4.1 モニタリング	
1.4.2 運用管理体制			
2. 循環型のまちづくり	2.1 雨水利用・雑排水再利用	2.2.1 雨水利用システム導入の有無	
		2.2.2 雑排水再利システム導入の有無	
	2.2 雨水排水負荷低減		
	2.3 非再生性資源の使用量削減	2.3.1 材料使用量の削減	
		2.3.2 既存建築躯体等の継続使用	
		2.3.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
		2.3.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	
		2.3.5 持続可能な森林から産出された木材	
	2.3.6 部材の再利用可能性向上への取組み		
2.4 廃棄物処理負荷抑制			
K2. うるおいのある景観をつくる			
1 緑豊かなまちなみ	1.1 生物資源の保全と創出		
2. 魅力ある景観	2.1 まちなみ・景観への配慮		
	2.2 水空間の創出★		独自項目
	2.3 道路沿いの緑化★		独自項目
K3. 安全で健康な生活環境をつくる			
1 健康な暮らし	1.1 空気質環境	1.1.1 発生源対策	
		1.1.2 換気	
		1.1.3 運用管理	
1.2 バリアフリー計画			
2 安全な暮らし	2.1 耐震・免震	2.1.1 耐震性	
		2.1.2 免震・制振性能	
	2.2 防犯対策★		独自項目

## 1.5. 評価システム概要

### (1) 評価項目の採点

Q(Quality: 建築物の環境品質)とL(Load: 建築物の環境負荷)、K(柏市の環境配慮重点項目)のそれぞれに含まれる評価項目について、各々設定された採点基準に従って採点を行う。QとLについてはレベル1～レベル5の5段階評価であり、レベル1は1点、レベル5は5点として、それぞれの項目の得点が決まる。Kについては、QとLの評価結果を一部引用して、レベル1～5の5段階評価をするほか、独自項目では採点基準に従って、1レベル(1点)加点する。

住宅系用途に分類される集合住宅、ホテル、病院では、<住居・宿泊部分>を、それ以外の部分(<建物全体・共用部分>)とは分けて両者を評価する。その際、評価項目によっては<住居・宿泊部分>と<建物全体・共用部分>では異なる採点基準が適用される。建物一体としての評価結果を得る際には、項目毎にスコアを各部分の床面積の比率に従って加重平均することで建物全体としての結果を得ることができる。

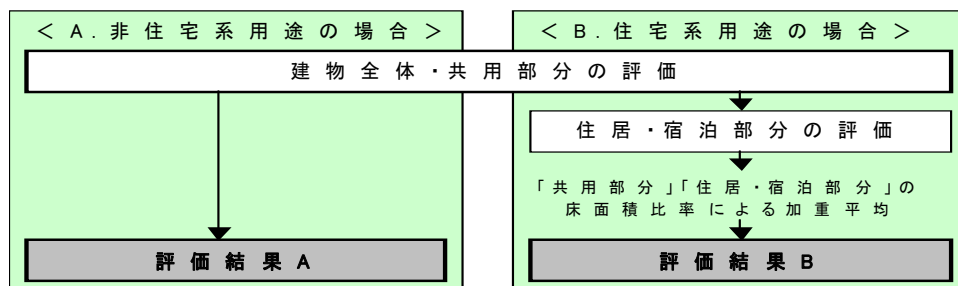


図 I.1.2 住宅系と非住宅系の用途建物を含む建物評価システム

### (2) LCCO<sub>2</sub>の算定

#### ■標準計算

LR3「1. 地球温暖化への配慮」の項目について、ライフサイクルCO<sub>2</sub>を指標として評価を行う。建築物におけるLCCO<sub>2</sub>の算定は、通常膨大な作業を伴うが、CASBEEにおいてはこれを簡易に求め、概算することとした(「標準計算」と呼ぶ)。具体的には、各建物用途において基準となるLCCO<sub>2</sub>排出量(全ての評価項目で「レベル3」の建物のLCCO<sub>2</sub>)を設定した上で、建設段階、運用段階、修繕・更新・解体段階において、CO<sub>2</sub>排出に関連する評価項目の結果(採点レベル)からほぼ自動的に算定できるようにしている(一部個別入力)。

#### 1) 建設段階

「LR2.資源・マテリアル」では、「既存建築躯体の継続使用」や「リサイクル建材の活用」が評価されている。これらの対策を考慮した建設資材製造に関連したCO<sub>2</sub>(embodied CO<sub>2</sub>)を、既存躯体の利用率、高炉セメントの利用率から概算する。

#### 2) 運用段階

「LR1.エネルギー」において評価している外皮性能のPAL値、各設備のCECの分母・分子の値を用いて算定される建物全体の一次エネルギー消費量の削減率「ERR(一次エネルギー消費量の低減率)」等の数値、効率的な運用における取組みに応じた削減率を用いて、運用段階のCO<sub>2</sub>排出を簡易に推計する。

#### 3) 修繕・更新・解体段階

長寿命化の取組みによる耐用年数の向上が「Q2.サービス性能」で評価されている。ただし、具体的な耐用年数の延命をLCCO<sub>2</sub>の計算条件として採用できる程の精度で推定することは難しい。従って、住宅を除き耐用年数は一律として、LCCO<sub>2</sub>を推計する。

・事務所、病院、ホテル、学校、集会場…60年固定

・物販店、飲食店、工場…30年固定

・集合住宅…住宅性能表示の劣化対策等級に従って、30、60、90年とする。

#### ■個別計算

一方、評価者自身が詳細なデータ収集と計算を行って精度の高いLCCO<sub>2</sub>を算出した場合、これを「個別計算」と呼び、評価結果の一部とすることができることとしている。個別計算の方法については、一般に公表さ

れたライフサイクルアセスメント(LCA)の手順を用い、用いた手法や計算条件等については、評価者により詳細を示していただくこととしている。一般に公表されているLCA手法で利用可能なものとしては、建物のLCA指針(日本建築学会編, 丸善, 2006)などが挙げられる。また、評価者による計算条件等の具体的な記述については、付属の評価ソフトにおける「LCCO<sub>2</sub>計算条件シート」への入力によることとしている。

### (3) 評価結果

採点結果は、「スコアシート」と「結果表示シート①」「結果表示シート②」の書式に集約される。

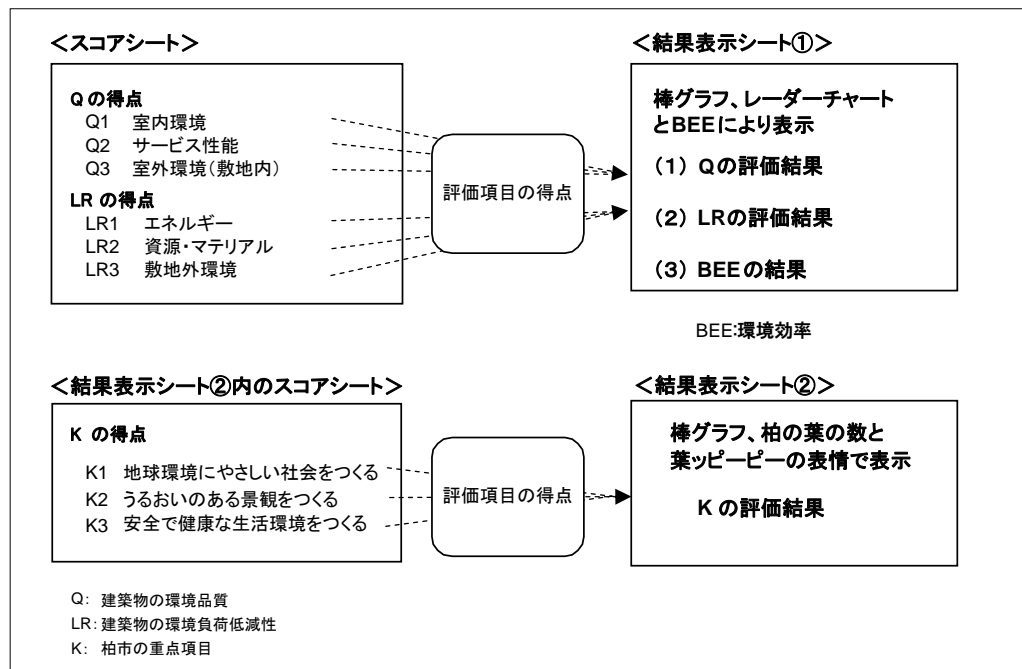


図 I.1.3 CASBEE 柏の基本構成

QとLRの評価項目ごとの採点の結果はまず、「スコアシート」に一覧表示される。これらを各評価項目の重み係数で加重して、Q1～Q3、LR1～LR3までの分野別の総合得点SQ1～SQ3、SLR1～SLR3、並びにQとLRの得点SQ、SLRを算出する。

「結果表示シート①」では、Q(建築物の環境品質)とLR(建築物の環境負荷低減性)のそれぞれについて、分野ごとの評価結果がレーダーチャートと棒グラフと数値で表示される。さらにBEE(建築物の環境効率)の結果がグラフと数値で表示され、これらによって、環境配慮に対する対象建物の特徴を多角的かつ総合的に把握することができる。

BEEは、QとLRの得点SQ、SLRに基づき、以下の式で求められる。










$$BEE = \frac{Q: \text{建築物の環境品質}}{L: \text{建築物の環境負荷}} = \frac{25 \times (SQ - 1)}{25 \times (5 - SLR)} \quad (1)$$

また、グラフ座標上で縦軸のQ値と横軸のL値でプロットされる環境効率の位置により、SランクからCランク5段階の建築物環境効率ランキングが表示される。なお、それぞれのランクは表 I.1.4に示す評価の表現に対応し、分かり易いように星印の数で表現される。

表 I.1.4 BEE値によるランクと評価の対応

ランク	評価		BEE 値ほか	ランク表示
S	Excellent	素晴らしい	BEE=3.0 以上、Q=50 以上	★★★★★
A	Very Good	大変良い	BEE=1.5 以上 3.0 未満	★★★★
B <sup>+</sup>	Good	良い	BEE=1.0 以上 1.5 未満	★★★
B <sup>-</sup>	Fairly Poor	やや劣る	BEE=0.5 以上 1.0 未満	★★
C	Poor	劣る	BEE=0.5 未満	★

Kの評価項目ごとの採点結果は、「結果表示シート②」のスコアシート(下部)に一覧表示される。これらを各評価項目で集計し、K1、K2、K3の評価結果がそれぞれ棒グラフ、柏の葉の数と葉っぱの表情で表示される。

2 重点項目への取組み度			
重点項目	取組み度	得点※/満点	評価
K1 地球環境にやさしい社会をつくる		4.1 / 5.0	素晴らしい 
K2 うるおいのある景観をつくる		3.0 / 5.0	ふつう 
K3 安全で健康な生活環境をつくる		2.5 / 5.0	がんばろう 
※ 対応するCASBEEのスコアと主な指標を元に、独自に設定された条件で評価をします。	評価 凡例		
	素晴らしい 4点以上 	ふつう 3点以上 	がんばろう 3点未満 

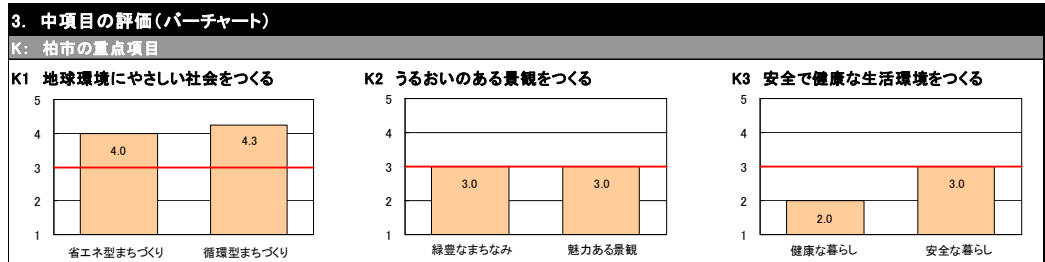


図 I.1.4 柏の葉、葉っぱの表情と棒グラフ(中項目)による評価

#### (4) 複合用途建築物の評価

2つ以上の用途が複合している建築物の評価算定は、評価対象の建築物に含まれている用途ごとの評価結果を、それぞれの床面積の比率によって加重平均して行う。すなわち、複合用途建築物における得点は、各用途の床面積比率により次式(2)から求められる。

$$\text{複合用途の得点} = \Sigma (\text{用途毎の得点} \times \text{床面積比率}) \quad (2)$$

なお、単体としての複合用途建築物のほか、同じ敷地内に複数の異なる用途の建物があるような場合にも、適用が可能である。

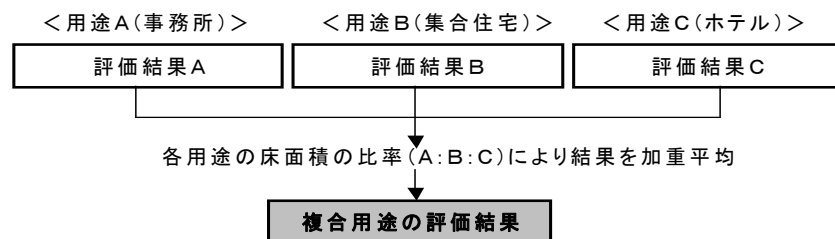


図 I.1.5 複合用途建築物の評価方法(3つの用途が複合している場合)

なお、LR1エネルギーの評価においては、全ての用途における、基準となる一次エネルギー消費量と評価建物の一次エネルギー消費量を合計し、建物全体でのERRを算定することにより、評価を行う。

同一敷地内に複数の対象となる建築物を計画する場合は、棟別に届出が必要となる。このとき、「Q-3室外環境」、「LR-3敷地外環境」の評価項目については、敷地全体での評価を行う。区域が道路等によって複数に分かれる場合には、それぞれの区域で評価を行う。

2. 建築物環境配慮計画書の作成方法

2.1 概要

(1) 「CASBEE柏」評価ソフトの構成

CASBEE柏評価ソフトの起動画面を示す。

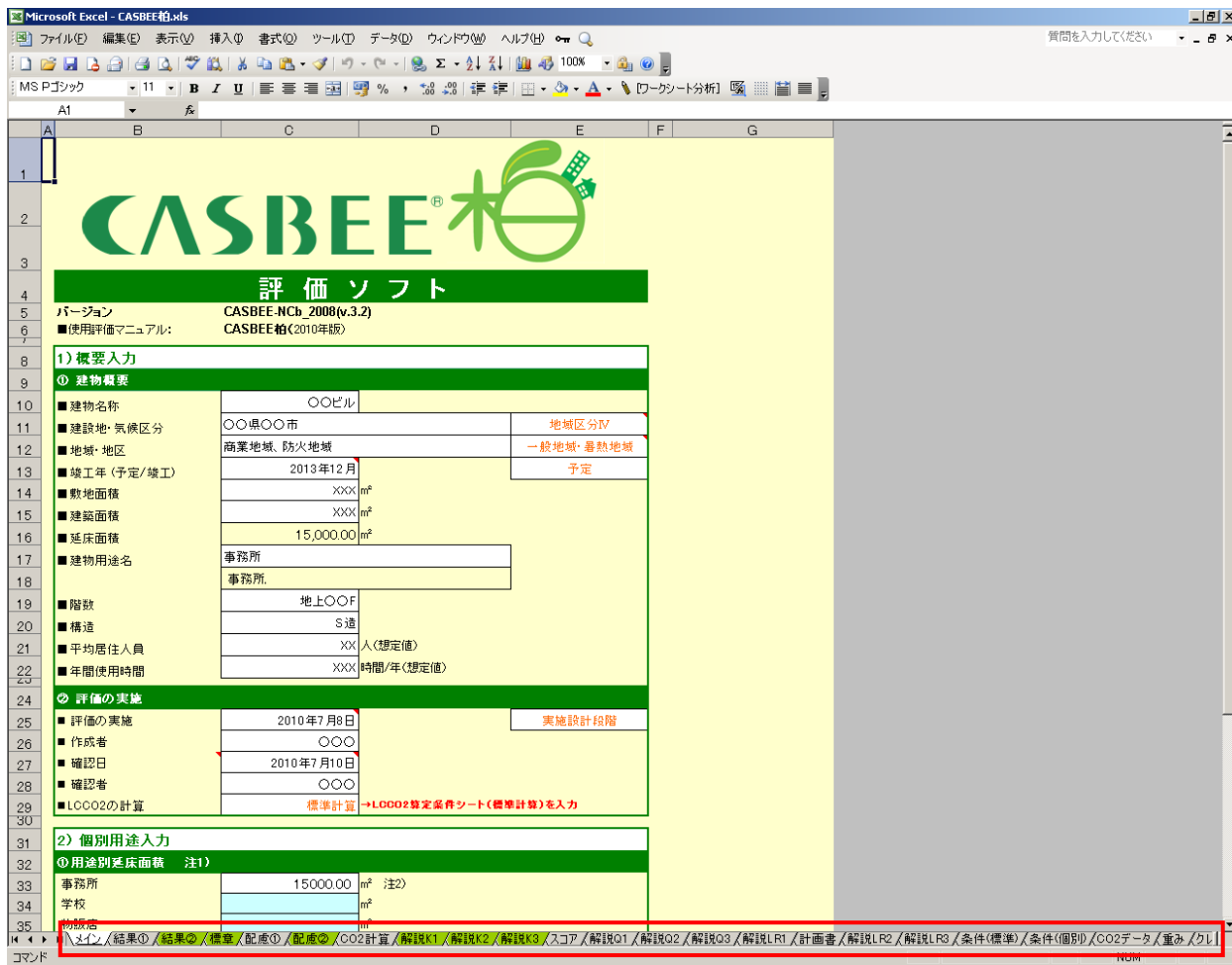


図 I.2.1 CASBEE柏評価ソフトの起動画面

■各シートの説明

- [1] メインシート:建物の概要(名称、用途、床面積等)を記載していただきます。
- [2] 配慮事項(1):全体コンセプト及び各項目の配慮事項を記載していただきます。
- [3] 配慮事項(2):柏市の重点項目に対する配慮事項を記載していただきます。
- [4] 解説シート:次の各項目について、採点を入力するシートです。  
Q-1 室内環境、Q-2 サービス性能、Q-3 室外環境(敷地内)  
LR-1 エネルギー、LR-2 資源・材料、LR-3 敷地外環境  
K-1 地球環境にやさしい社会をつくる、K-2 うるおいのある景観をつくる、  
K-3 安全で健康な生活環境をつくる
- [5] 計画書シート:省エネルギー計画書などから必要事項を記載していただきます。
- [6] スコアシート:解説シート④により入力された各項目の採点結果を一覧で表示します。4点又は5点の評価を行った項目について、「環境配慮設計の概要記入欄」に評価の根拠となる配慮事項を具体的に記載していただきます。

入力が必要なシート

(2010年版)

結果を表示  
するシート

- [7] 結果表示シート①:評価の結果を、数値やグラフ・レーダーチャートなどで表示します。
- [8] 結果表示シート②: 柏市の重点項目の取組み度合いをグラフなどで表示します。
- [9] LCCO<sub>2</sub>算定シート:LCCO<sub>2</sub>の計算過程、算定条件及び各用途の排出量データを表示します。
- [10] 重みシート:各項目の評価の重み係数一覧です。
- [11] CO<sub>2</sub>データ:LCCO<sub>2</sub>の算定に用いるデータの一覧です。

## (2)環境配慮計画書作成の流れ

CASBEE 柏に基づく環境配慮計画書作成の流れを以下に示す。

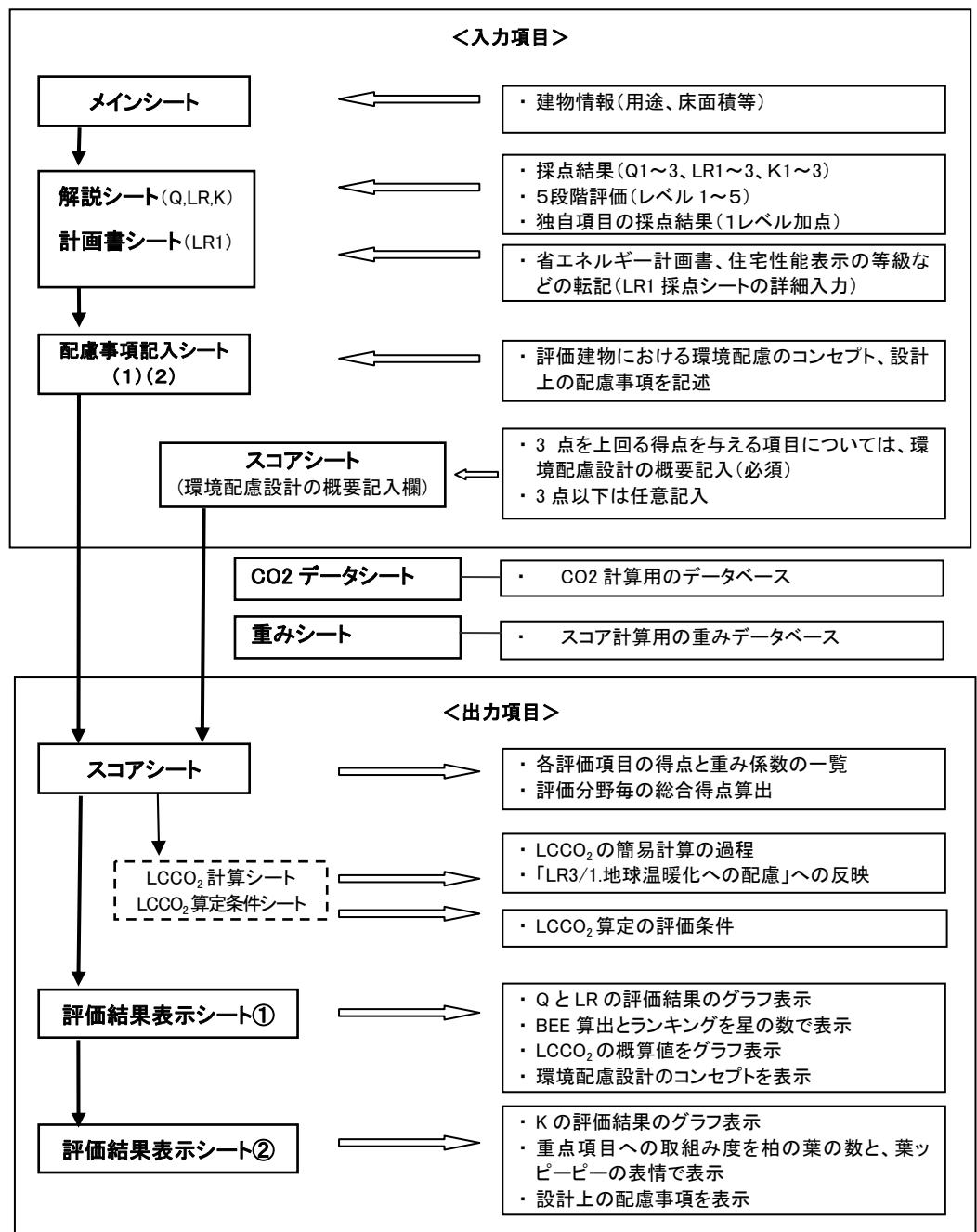



図 I.2.2 環境配慮計画書作成フロー図

## 2.2 メインシートへの必要事項の記入

メインシートに評価する建物の概要(名称、用途、床面積等)を記入する。



## 評価ソフト

バージョン CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)  
 ■使用評価マニュアル: CASBEE柏(2010年版)

### 1) 概要入力

#### ① 建物概要

■建物名称	〇〇ビル	
■建設地・気候区分	〇〇県〇〇市	地域区分IV
■地域・地区	商業地域、防火地域	一般地域・暑熱地域
■竣工年(予定/竣工)	2013年12月	予定
■敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	
■建築面積	XXX m <sup>2</sup>	
■延床面積	15,000.00 m <sup>2</sup>	
■建物用途名	事務所	
	事務所	
■階数	地上〇〇F	
■構造	S造	
■平均居住人員	XX 人(想定値)	
■年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)	

#### ② 評価の実施

■評価の実施	2010年7月8日	実施設計段階
■作成者	〇〇〇	
■確認日	2010年7月10日	
■確認者	〇〇〇	
■LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力

### 2) 個別用途入力

#### ① 用途別延床面積 注1)

事務所	15000.00	m <sup>2</sup> 注2)
学校		m <sup>2</sup>
物販店		m <sup>2</sup>
飲食店		m <sup>2</sup>
集会所		m <sup>2</sup>
工場		m <sup>2</sup>
病院		m <sup>2</sup>
ホテル		m <sup>2</sup>
集合住宅		m <sup>2</sup>

#### ② 住居・宿泊部分の比率

■病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	
■ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	
■集合住宅の延床面積のうち、住居部分の床面積の比率	

注1) 副用途が2000m<sup>2</sup>以下で建物全体の2割以下の場合は、主用途に含めて評価してよい。  
 注2) 建物全体の2割以上を占める電算室は、工場として評価する。

### 3) 結果出力

スコアシート	●スコア
評価結果表示シート	●結果 ●LCCO2計算
LCCO2算定条件シート	●標準計算 ●個別計算

図 I.2.3 メインシート画面



## 1) 概要入力

### ① 建物概要

評価建物の基本情報(名称、用途、規模等)を入力する。これらの情報は各シート及び、評価結果表示シート①に自動的に転記される。

表 I .2.1 建物概要欄の入力項目と入力例

入力項目	入力例	入力項目	入力例
建物名称	〇〇ビル	延床面積	〇〇〇(数値)
建設地・気候区分	千葉県柏市〇〇	建物用途名	事務所、学校、集合住宅
地域・地区	商業地域、防火地域	(建物用途)	庁舎、大学
地域区分	地域区分IV※	階数	+〇〇F
竣工年	2011.12	構造	S 造
敷地面積	〇〇〇(数値)	平均居住人員	〇〇〇(数値)
建築面積	〇〇〇(数値)	年間使用時間	〇〇〇(数値)

※地域区分は、「住宅に係わるエネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準」(平成18年経済産業省・国土交通省告示第3号 公布:平成18年3月27日)別表第1によるⅠ～Ⅵの6地域から選択する。柏市はⅣを記入(集合住宅の場合のみ入力)。

### ② 評価の実施

評価実施の日付、評価者を入力する。評価内容の確認者が別にいる場合は、確認日と確認者の欄へ記入する。

## 2) 個別用途入力

### ① 建物用途名

CASBEE 柏は戸建住宅を除く全ての用途に適用可能である。用途分類は省エネルギー法に基づく8用途(工場含む)、及び集合住宅であり、戸建て住宅は対象外とする。なお、工場については、Q1(室内環境)～Q2.1(機能性)の評価では主に居住エリア(事務室等)を評価の対象とし、生産エリアは評価対象外とする。また、LR1エネルギーの評価は、生産プロセスに係るエネルギー消費は対象外とする。

対象となる用途については、「非住宅系用途」と「住宅系用途」の大きく二つに区分している。特に「住宅系用途」に区分される病院、ホテル、集合住宅は、利用者の住居・宿泊空間(以下<住居・宿泊部分>)を含む建築物である。これら、住宅系用途の建築物の評価は、「住居・宿泊部分」とそれ以外の共用部分(以下<建物全体・共用部分>)とに分けて行う。建物用途は、表 I .2.2の中から最も該当するものを選択する。各用途にそれぞれの面積を入力する。評価対象とする建築物のより具体的な用途名は、1)概要入力の「建物用途名」欄に入力する。

### ② 住居・宿泊部の比率

住宅系用途の建築物を評価する場合は、<建物全体・共用部分>と<住居・宿泊部分>の床面積比を入力する。(病院では病室部分、ホテルでは宿泊室部分、集合住宅では住居部分の占める割合を0～1.0までの値で入力する。非住宅系用途の建築物では入力しない)

表 I.2.2 建物用途と区分

用途区分	用途名	含まれる用途	類似する用途
非住宅系用途	事務所	事務所、庁舎、図書館、博物館、郵便局など	保健所・学習塾
	学校	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校など	幼稚園・保育園
	物販店	百貨店、マーケットなど	理髪店・美容院などのサービス店舗
	飲食店	飲食店、食堂、喫茶店など	
	集会所	公会堂、集会場、ボーリング場、体育館、劇場、映画館、ぱちんこ屋、展示施設など	寺社・ダンスホール・
	工場	工場、車庫、倉庫、観覧場、卸売市場など	危険物取扱所・畜舎
住宅系用途	病院	病院、老人ホーム、身体障害者福祉ホームなど	診療所
	ホテル	ホテル、旅館など	
	集合住宅	集合住宅(戸建は対象外)	

3) 結果出力

結果出力欄の「評価結果表示シート」や「スコアシート」、「LCCO<sub>2</sub>計算シート」を選択すると、各々のシートを画面上に呼び出すことができる。

2.3 スコアシートへの入力

解説シートで採点した結果は自動的にスコアシートに反映される。基準点を3点とし、3点を上回る得点を与える評価項目については、環境配慮設計の概要記入を必須とする。

CASBEE 柏 (2010 年版)		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE 柏 (2010 年版)		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)		解説シートの採点結果	
スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		建物全体	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体		建物全体	住居宿泊
Q 建築物の環境品質						3.0			
Q1 室内環境			0.40			3.0			
1 音環境		3.0	0.15			3.0			
1.1 騒音		3.0	0.40						
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			3.0	3.0
2 設備騒音対策		-	-	-	-			0.0	0.0
1.2 遮音		3.0	0.40						
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			3.0	3.0
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			3.0	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			3.0	3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			3.0	3.0
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			3.0	3.0

採用対策を具体的に記入  
(3点を上回る得点を与える評価項目の記入は必須)

図 I.2.4 スコアシートへの入力方法

2.4 解説シートへの入力(Q1,Q2,Q3,LR1,LR2,LR3,K1,K2,K3)

解説シートには各用途における採点基準表が表示されており、評価項目毎に、レベル1からレベル5までの5段階の採点基準を解説している。評価者はその表に従って採点を行う。  
解説シートの採点結果は「スコアシート」の右端欄外に表示される。

表 I.2.3 解説シートにおける主要な構成項目

構成項目	説明
採点欄	採点結果をレベル1~5(または対象外)のプルダウンで選択 独自項目では、採否(採用は「○」)をプルダウンで選択
採点基準欄	各項目の採点基準を表示
評価する取組み欄	一部の項目で採用されている採点方法。環境配慮を行う上で配慮すべき事項がリスト化されており、該当項目を選択することで採点する
重み係数(規定)欄	用途により規定されている重み係数を表示(変更不可)

1)採点基準

図 I.2.5に示すように、採点シートには各用途における採点基準表が表示されており、評価者はその表に従って採点を行う。〈建物全体・共用部分〉は全用途共通に採点する項目である。住宅系用途のQ-1及びQ-2の評価にあたっては、各建物の共用部(病院の外来待合、ホテルのロビー、集合住宅のエントランス等)と、専用部分(病院の病室、ホテルの宿泊室、集合住宅の住戸)を評価する。Q1とQ2の解説シートについて、〈住居・宿泊部分〉の採点基準と評価欄が用意されており、専用部分についてについても採点を行う。

採点基準は、項目毎にレベル1~5の段階設定がされており、採点欄ではそのレベル数をプルダウンで選択(レベル3の場合は3を選択)する。対象建築物の個別条件によって採点基準をそのまま適用できないような場合、一部の評価項目で「対象外」を選択することができる(対象外とできる項目はマニュアルの解説中に記載されている)。対象外を選択した場合、特に示されない限り、対象外とした項目の重みが「0」で計上され、それ以外の項目の重みに比例配分される。

注)採点基準表の中で、空欄となっている場合は、中間的レベル(レベル2、レベル4)が選択可能。

■建物名称 ○○ビル

■色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

実施設計段階

**Q1 室内環境**

1 音環境

1.1 騒音

1.1.1 暗騒音レベル

dB(A) 重み係数(既定) = 0.50				dB(A) 重み係数(既定) = 0.00				
建物全体・共用部分				住居・宿泊部分				
レベル 3.0	事・病(待)・ホ・工・住	学・病(診)	物・飲	会	レベル 3.0	病	ホ・住	
レベル 1	50 < [暗騒音レベル]	45 < [暗騒音レベル]	55 < [暗騒音レベル]		1	50 < [暗騒音レベル]	45 < [暗騒音レベル]	
レベル 2	47 < [暗騒音レベル] ≤ 50	42 < [暗騒音レベル] ≤ 45	52 < [暗騒音レベル] ≤ 55		2	47 < [暗騒音レベル] ≤ 50	42 < [暗騒音レベル] ≤ 45	
■レベル 3	43 < [暗騒音レベル] ≤ 47	38 < [暗騒音レベル] ≤ 42	48 < [暗騒音レベル] ≤ 52		3			
レベル 4	40 < [暗騒音レベル] ≤ 43	35 < [暗騒音レベル] ≤ 38	45 < [暗騒音レベル] ≤ 48		4			
レベル 5	[暗騒音レベル] ≤ 40	[暗騒音レベル] ≤ 35	[暗騒音レベル] ≤ 45		5	[暗騒音レベル] ≤ 40	[暗騒音レベル] ≤ 35	
<b>暗騒音：室内許容騒音レベル*</b>								
dB(A)	20	25			45	50	55	60
NC~NR	10~15	15~20	2		35~40	40~45	45~50	50~55
うるささ	無音感	非常に静か			騒音を感じる	騒音を無視できない	騒音を無視できない	騒音を無視できない
会話・電話への影響		5m離れた			可能	普通会話(3m以内)	電話は可能	電話は可能
スタジオ	無音室	アナウンススタジオ	やき声が			一般事務室	ホテルロビー	
集会・ホール		音楽堂	ラジオスタ			検査室	待合室	
病院		聴力試験室	劇場(中)					
		特別病室	手術室・病室					
			診療室					

**プルダウンメニューから  
1~5、対象外を選択**

図 I.2.5 解説シート画面

2) 評価する取組み

一部の採点項目(特に「Q3 室外環境(敷地内)」、「LR3 敷地外環境」)においては、採点基準表に付属する「評価する取組み」表に示される取組み度合いをチェックすることで採点を行う。「評価する取組み」表には、環境配慮設計を行う上で、配慮すべき事項がチェック項目または手法のリストとしてまとめられている。リストに示される個々の取組みの有無を評価し、与えられるポイントの合計点数(または項目数)により項目の採点を行う。

Q3 室外環境(敷地内)

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

実施設計段階

1 生物環境の保全と創出

重み係数(既定) = 0.30

レベル 4.0	事・学・物・飲・会・病・ホ・工・住
レベル 1	生物環境の保全と創出に関して配慮に欠け、取組みが不十分である。(評価ポイント0~3)
レベル 2	生物環境の保全と創出に関して配慮されているが、取組みが十分とはいえない。(評価ポイント4~6)
レベル 3	生物環境の保全と創出に関して配慮されており、標準的な取組みが行われている。(評価ポイント7~9)
レベル 4	生物環境の保全と創出に関して配慮されており、比較的多くの取組みが行われている。(評価ポイント10~12)
レベル 5	生物環境の保全と創出に関して十分配慮されており、充実した取組みが行われている。(評価ポイント13以上)

評価する取組み

採点	評価項目	評価内容	評価ポイント
1 ポイント	I 立地特性の把握と計画方針の設定	1)敷地	1
1 ポイント		2)立地	
1 ポイント	II 生物資源の保全	1)敷地内にある動植物、表土、水辺等の生物資源を保存している。	1
1 ポイント		2)敷地内にあつた動植物、表土、水辺等の生物資源を復元(再生)している。	
2 ポイント	III 緑の量の確保	1) 外構面積の10%以上~20%未満を緑化し、なおかつ中高木を植栽している。(1ポイント)	1~3
1 ポイント		外構面積の20%以上~50%未満を緑化している。(2ポイント)	
		外構面積の50%以上を緑化している。(3ポイント)	
1 ポイント	2) 建物緑化指数が0.05以上~0.2未満を示す建築物の緑化を行っている。(1ポイント)	1~2	
1 ポイント	建物緑化指数が0.2以上を示す建築物の緑化を行っている。(2ポイント)		
1 ポイント	IV 緑の質の確保	1) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。	1
1 ポイント		2) 野生小動物の生息域の確保に配慮した緑地づくりを行っている。	
1 ポイント	V	緑地づくりを行っている。	1
0 ポイント		必要な設備を設置し、なおかつ	
0 ポイント	VI その他	2)建物利用者が地域住民が生物とつながり、自然に親しめる環境や施設等を確保している。	1
0 ポイント		1)上記の評価項目以外に生物環境の保全と創出に資する独自の取組みを行っている。	
合計 =	10ポイント		

①プルダウンメニューから0ポイント、1ポイント、2ポイント、対象外を選択

② 評価する取組みの合計ポイントによって採点される

図 I .2.6 「評価する取組み」方式の採点シート

3)LR1 エネルギー の採点方法

「LR1エネルギー」の採点項目では、省エネ法に基づく、建築物の省エネルギー基準を一部項目に採用している。「1. 建物の熱負荷抑制」では性能基準であるPAL値、または仕様基準であるポイント値により評価する(集合住宅の場合には日本住宅性能基準の省エネルギー対策等級)。「3. 設備システムの高効率化」では、CEC値またはポイント値、またはそれらを総合化したERR値により評価する。これら2項目の評価にあたっては、図 I .2.7に示す「計画書シート」において入力を行う。具体的には、省エネルギー基準に基づき外皮

(2010年版)

性能、設備機器の各項目について「評価基準種別」の欄から「PAL値」「ポイント値」「ERR」等の評価指標を選択し、おのおの該当する数値を入力する。既に「省エネルギー計画書」または「住宅性能評価書」を作成している場合には、当該数値を「計画書シート」に転記することにより、「1. 建物の熱負荷抑制」「3. 設備システムの高効率化」の評価を行う。

■「省エネルギー計画書」「住宅性能評価書」等からの必要事項の転記

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値を記入

用途名	建物全体	事務所	学校	物販店	飲食店	集会所
		事務所用途別床面積	15,000			
建築計画	評価基準種別	PAL値	PAL値	PAL値	PAL値	PAL値
	PAL値	280.0	320.0	380.0	550.0	550.0
	建築主の判断基準値	300	320	380	550	550
	ポイント値、断熱等級	290	0	0	0	0
	建築主の判断基準値	100	100	100	100	100
	LR1/1.建物の熱負荷抑制	レベル 3.0	レベル 3.0	レベル 3.0	レベル 3.0	レベル 3.0
建物全体の評価	LR1/1.建物の熱負荷抑制	レベル 3.0	3.00	0.00	0.00	0.00

空気調和設備	評価基準種別	CEC/AC値	(-) 1.0
	建築主の判断基準値	(-) 1.5	
	年間空調消費エネルギー量	MJ/年 1,312,000	
	年間仮想空調負荷	MJ/年 1,312,000	
	ポイント値	点 100	
	補正点	点 0	
機械換気設備	評価基準種別	CEC/V値	(-) 1.0
	建築主の判断基準値	(-) 1.0	
	年間換気消費エネルギー量	MJ/年 678,300	
	年間仮想換気消費エネルギー量	MJ/年 678,300	
	ポイント値	点 150	
	建築主の判断基準値	点 100	
照明設備	評価基準種別	CEC/L値	(-) 0.8
	建築主の判断基準値	(-) 1.0	
	年間照明消費エネルギー量	MJ/年 3,238,400	
	年間仮想照明消費エネルギー量	MJ/年 4,048,000	
	ポイント値	点 160	
	建築主の判断基準値	点 100	
給湯設備	評価基準種別	CEC/HW値	(-) 1.6
	lx値	8	
	建築主の判断基準値	(-) 1.6	
	年間給湯消費エネルギー量	MJ/年 312,000	
	年間仮想給湯負荷	MJ/年 195,000	
	ポイント値	点 160	
昇降機設備	評価基準種別	CEC/EV値	(-) 0.7
	建築主の判断基準値	(-) 1.0	
	年間昇降機消費エネルギー量	MJ/年 94,430	
	年間仮想昇降機消費エネルギー量	MJ/年 134,900	
	ポイント値	点 150	
	建築主の判断基準値	点 100	
エネルギー利用効率化設備	太陽光発電による年間省エネルギー量	MJ/年 3,000	
	その他効率化設備での年間省エネルギー量	MJ/年 40,000	
	効率化設備での年間省エネルギー量(A)	MJ/年 43,000	
	建物全体の年間消費エネルギー量(B)	MJ/年 11,869,000	
	省エネルギー率(k値) A/B	0.4%	
	ERR	ERRでの評価の採否(単独用途の場合)	ERR評価
	個別設備評価の場合のスコア	レベル 0.0	
	個別設備評価の場合のERR	0%	
	評価対象建物の一次エネルギー消費量	MJ/年 7,428,280	
	基準となる一次エネルギー消費量	MJ/年 8,961,360	

CEC/AC値	CEC/AC値	CEC/AC値	CEC/AC値	CEC/AC値
1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.5	1.5	1.7	2.2	2.2
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
100	100	100	100	100
レベル 5.0	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力
0.45	0.65	0.40	0.40	0.40
CEC/V値	CEC/V値	CEC/V値	CEC/V値	CEC/V値
1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.0	0.8	0.9	1.5	1.0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
100	100	100	100	100
レベル 3.0	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力
0.15	0.10	0.10	0.10	0.10
CEC/L値	CEC/L値	CEC/L値	CEC/L値	CEC/L値
0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
100	100	100	100	100
レベル 4.0	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力
0.30	0.20	0.35	0.35	0.35
CEC/HW値	CEC/HW値	CEC/HW値	CEC/HW値	CEC/HW値
1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
8	0	0	0	0
lx値未入力	lx値未入力	lx値未入力	lx値未入力	lx値未入力
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
100	100	100	100	100
レベル 3.0	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力	CEC値未入力
0.05	0.05	0.15	0.15	0.15
CEC/EV値	CEC/EV値	CEC/EV値	CEC/EV値	CEC/EV値
0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
1.0	-	-	-	-
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
100	-	-	-	-
レベル 5.0	レベル 0.0	レベル 0.0	レベル 0.0	レベル 0.0
0.05	-	-	-	-
ERR評価	ERR評価	ERR評価	ERR評価	ERR評価
レベル 0.0	レベル 0.0	レベル 0.0	レベル 0.0	レベル 0.0
0%	0%	0%	0%	0%
7,428,280	0	0	0	0
8,961,360	0	0	0	0

LR1/3.設備システムの高効率化

建物全体のERR (集合住宅除く)	評価対象建物の一次エネルギー消費量	MJ/年	7,428,280
	基準となる一次エネルギー消費量	MJ/年	8,961,360
	ERR(一次エネルギー消費削減率)		17.1%
建物全体のスコア (集合住宅除く)			レベル 4.0
建物全体のスコア			レベル 4.0

図 I.2.7 「計画書シート」(入力例、抜粋)

#### 4) CASBEE 柏の独自項目

一部の採点項目(「K2/2.2 水空間の創出」「K2/2.3 道路沿いの緑化」「K3/2.2 防犯対策」)においては、採点基準表に示される取組みの「採否」をプルダウンで入力する。

#### 2.2 水空間の創出

採否	評価する取組み
	次の取組みのいずれかを実施している。 ・滝・噴水・人工池等の水景空間の設置 ・雨水貯留池の設置 ・水路・せせらぎの整備 ・水辺を含んだビオトープ(小生物生息空間)の整備

図 I.2.8 「評価する取組み」方式の採点シート

#### 5) 複合用途建築物の採点方法

複合用途建築物の評価を行う場合は、評価者自らにより、含まれる各用途のレベル(得点)をそれぞれの面積割合により加重平均した結果を入力する。各用途での結果を評価項目毎に面積加重平均し、結果を整数でCASBEE-新築(簡易版)の評価ソフトに入力(プルダウンから選択)する。平均の結果は四捨五入した整数とする。

LR1エネルギーの評価では、複合用途建築物の場合「計画書シート」において9用途それぞれに「省エネルギー計画書」または「住宅性能評価書」からの数値の転記欄が設けられているので、用途毎に数値を入力すればよい。「1. 建物の熱負荷抑制」については、全用途における採点レベルの面積加重平均、「3. 設備システムの高効率化」については全用途における、基準となる一次エネルギー消費量と評価建物の一次エネルギー消費量をそれぞれ合計し、建物全体でのERRを算定(自動計算)することにより、評価を行う。

## 2.5 配慮事項記入シート

評価建物の環境配慮の全体像を第三者が把握し易くするために、環境配慮設計における配慮事項を記述する。記述内容は評価結果表示シートの「3. 設計上の配慮事項」に表示される。

配慮事項記入シート(1)の、「総合」、「Q1」～「LR3」、「その他」の各欄に記述する(自由記述)。「総合」欄には、建物全体におけるコンセプトを、「Q1」～「LR3」欄には、各評価項目に関連する事項を記述する。「その他」の欄には、「Q1」～「LR3」において評価されない「その他」の環境配慮の取り組みを記載する。

配慮事項記入シート(2)には、「K1」～「K3」の各欄に、柏市の重点項目に対する取組みの内容を記述する(自由記述)。

### ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ○○ビル

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。

図 I.2.9 「配慮事項記入シート(1)」

## 柏の重点項目における配慮事項

■使用評価マニュアル： 柏市建築物環境配慮制度 CASBEE柏マニュアルVer.1.0

<b>K1 地球環境にやさしい社会をつくる</b>	
<b>1. 省エネ型まちづくり</b>	
注) 「1. 省エネ型まちづくり」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	
<b>2. 循環型まちづくり</b>	
注) 「2. 循環型まちづくり」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	
<b>K2 うるおいのある景観をつくる</b>	
<b>1. 緑豊かなまちなみ</b>	
注) 「1. 緑豊かなまちなみ」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	
<b>2. 魅力ある景観</b>	
注) 「2. 魅力ある景観」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	
<b>K3 安全で健康な生活環境をつくる</b>	
<b>1. 健康な暮らし</b>	
注) 「1. 健康な暮らし」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	
<b>2. 安全な暮らし</b>	
注) 「2. 安全な暮らし」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	

図 I.2.10 「配慮事項記入シート(2)」



(2010年版)

2.6 ライフサイクル CO<sub>2</sub> 計算シート

図 I .2.11にライフサイクルCO<sub>2</sub>(LCCO<sub>2</sub>)計算シートを示す。本シートでは、「解説シート」と「計画書シート」に入力した内容に従って自動計算されるLCCO<sub>2</sub>(標準計算)の計算過程を表示する。  
建設段階、修繕・更新・解体段階、運用段階の各段階について、「参照値」(基準となる建物=全ての評価項目でレベル3相当)と「評価対象」のCO<sub>2</sub>排出量がkg-CO<sub>2</sub>/年m<sup>2</sup>で表示される。

CASBEE 柏 (2010年版)		■使用評価マニュアル: CASBEE 柏 (2010年版)						
Oビル		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)						
<b>ライフサイクルCO<sub>2</sub>計算シート(標準計算用)</b>								
		評価対象		参照値				
		kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>		kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>				
		レベル3	レベル4	レベル5	採点結果	CO <sub>2</sub> 排出量	採点結果	CO <sub>2</sub> 排出量
1. 建設に係るCO <sub>2</sub> 排出量		延床面積比率						
1-1. 評価結果のCO <sub>2</sub> 排出量への置き換え								
Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	事務所	1.00	13.61	13.61	3.0	13.61	3.0	13.61
	学校	0.00	10.24	10.24	3.0	10.24	3.0	10.24
	物販店	0.00	16.13	16.13	3.0	16.13	3.0	16.13
	飲食店	0.00	16.13	16.13	3.0	16.13	3.0	16.13
	集会所	0.00	10.96	10.96	3.0	10.96	3.0	10.96
	工場	0.00	18.18	18.18	3.0	18.18	3.0	18.18
	病院	0.00	10.39	10.39	3.0	10.39	3.0	10.39
	ホテル	0.00	10.92	10.92	3.0	10.92	3.0	10.92
	集合住宅	0.00	15.93	8.06	3.0	15.93	3.0	15.93
評価対象の構造		S造						
LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用		0%					0%	
LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材(高炉セメント)		0%					0%	
1-2. 合計の計算				13.61		13.61		
2. 修繕・更新・解体に係るCO <sub>2</sub> 排出量								
2-1. 評価結果のCO <sub>2</sub> 排出量への置き換え		延床面積比率						
Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	事務所	1.00	20.23	20.23	3.0	20.23	3.0	20.23
	学校	0.00	16.68	16.68	3.0	16.68	3.0	16.68
	物販店	0.00	12.20	12.20	3.0	12.20	3.0	12.20
	飲食店	0.00	12.20	12.20	3.0	12.20	3.0	12.20
	集会所	0.00	17.39	17.39	3.0	17.39	3.0	17.39
	工場	0.00	13.62	13.62	3.0	13.62	3.0	13.62
	病院	0.00	20.24	20.24	3.0	20.24	3.0	20.24
	ホテル	0.00	18.11	18.11	3.0	18.11	3.0	18.11
	集合住宅	0.00	13.58	14.94	3.0	13.58	3.0	13.58
2-2. 合計の計算				20.23		20.23		
3. 運用時のエネルギーに係るCO <sub>2</sub> 排出量				108.61		108.98		
4. ライフサイクルCO <sub>2</sub> の計算(標準計算)				142.45		142.82		
				CO <sub>2</sub> 排出量		CO <sub>2</sub> 排出量		
建設				13.61		13.61		
修繕・更新・解体				20.23		20.23		
運用				108.61		108.98		
合計				142.45		142.82		

図 I .2.11 「ライフサイクル CO<sub>2</sub> 計算シート」(出力例)(1)・「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート(標準計算)」

標準計算で評価を実施している場合は、LCCO<sub>2</sub>算定に用いられている評価条件がLCCO<sub>2</sub>算定条件シート(標準計算)表示される。代表的な資材の量や環境負荷原単位、エネルギーのCO<sub>2</sub>排出係数等が計算根拠として表示される。

なお、既存躯体の再利用と高炉セメントを採用した場合は、それぞれの利用率を本シートに入力する。この数値が、LCCO<sub>2</sub>計算シートの建設段階のCO<sub>2</sub>排出量計算に反映される。

■LCCO<sub>2</sub>算定条件シート(標準計算)

■建物名称

〇〇ビル

CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

項目	参照値(参照建物)	評価対象	備考	
建物概要	建物用途	事務所.	事務所.	
	建物規模	15,000㎡	15,000㎡	
	構造種別	S造	S造	
ライフサイクル設定	想定耐用年数	事務所部分60年.	事務所部分60年.	
建設段階	CO <sub>2</sub> 排出量	13.61	13.61	kg-CO <sub>2</sub> /年㎡
	エンボディドCO <sub>2</sub> の算定方法	日本建築学会による1995年産業連関表分析による日本の平均値	左記からの、リサイクル建材の採用による削減量を推定して算定	
	CO <sub>2</sub> 排出量原単位の出典	日本建築学会による1995年産業連関表分析による分析結果	同左	
	バウンダリー	国内消費支出分	同左	
	代表的な資材量			
	普通コンクリート	0.57	0.57	m <sup>3</sup> /㎡
	高炉セメントコンクリート	0.00	0.00	m <sup>3</sup> /㎡
	鉄骨	0.14		
	鉄骨(電炉)	0.00		
	鉄筋	0.07		
	木材	0.01		
	□ □	〇〇		
	代表的な資材の環境負荷			
	普通コンクリート	282.00		
	高炉セメントコンクリート	206.00		
	鉄骨	0.90		
	鉄骨(電炉)	0.90		
	鉄筋	0.70		
	型枠	7.20		kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	□ □	〇〇		kg-CO <sub>2</sub> /kg
主要なリサイクル建材と利用率				
高炉セメント(躯体での利用率)	0%	0%		
既存躯体の再利用(躯体での利用率)	0%	0%		
電炉鋼材(鉄筋)	0%	0%		
電炉鋼材(鋼材)	0%	0%		
CO <sub>2</sub> 排出量	20.23	20.23	kg-CO <sub>2</sub> /年㎡	
更新周期(年)				
外装	25年	25年		
内装	18年	18年		
設備	15年	15年		
平均修繕率(%/年)				
外装	1%	1%		
内装	1%	1%		
設備	2%	2%		
解体段階のCO <sub>2</sub> 排出量の算定方法	解体廃棄物量として、2000kg/㎡を仮定して、30kmの道路運送分を評価	同左		
CO <sub>2</sub> 排出量	108.98	108.61	kg-CO <sub>2</sub> /年㎡	
エネルギー消費量の算定方法	統計値より、一次エネルギー消費量の平均値を引用	LR1の取り組みによる省エネルギー量を推定		
一次エネルギー消費量	29,040,000	28,942,132	MJ/年	
エネルギーのCO <sub>2</sub> 排出量原単位				
一次エネルギーあたり	0.0563	同左	CO <sub>2</sub> -kg/MJ	
電力	0.555	同左	CO <sub>2</sub> -kg/kWh	
ガス	0.0506	同左	CO <sub>2</sub> -kg/MJ	
その他の燃料( )	〇〇	同左	CO <sub>2</sub> -kg/MJ	
上水使用				
その他				

既存躯体の再利用と高炉セメントを採用した場合は、それぞれの利用率を入力

0%

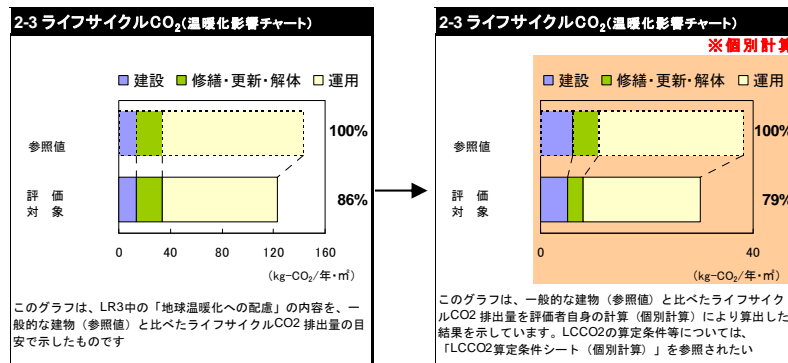
図 I .2.12 「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート(標準計算)」

## (2)「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート(個別計算)」と留意点

CASBEE 柏においては標準計算に加え、個別計算として評価者自身が詳細なデータ収集と計算を行って精度の高いLCCO<sub>2</sub>を算出した場合、評価結果の一部とすることができることとしている。具体的には、評価結果表示シート①の「2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)」に計算値が表示される。なお、個別計算の結果は、「LR-3 1. 地球温暖化への配慮」およびBEEIには反映されない。

LCCO<sub>2</sub>を個別計算によって求めた場合、以下の点に留意する。

- 1) 評価者はメインシートにおいて、1) 概要入力②評価の実施の「LCCO<sub>2</sub>計算」の欄で「個別計算」をプルダウンメニューから選択する。
- 2) LCCO<sub>2</sub>の算定条件については、これを明記する。2008年版の評価ソフトにおいては、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート(個別計算)」に算定条件を入力する。
- 3) LCCO<sub>2</sub>の個別計算値は「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート(個別計算)」に評価者自身が入力する。建設段階、修繕・更新・解体段階、運用段階の各段階について、「参照値」(基準となる建物=全ての評価項目でレベル3相当)と「評価対象」のCO<sub>2</sub>排出量をkg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>で入力する。
- 4) 個別計算を用いた場合のライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)については、グラフの背景が着色表示され、標準計算での結果でないことがすぐに判別できるようにしている。



(a)標準計算での結果表示

(b)個別計算での結果表示

図 I.2.13 個別計算におけるLCCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)の表示例

CASBEE 柏 (2010年版)		■使用評価マニュアル: CASBEE 柏 (2010年版)		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)		解説シートの採点結果	
OODビル		欄に数値またはコメントを記入				建物全体 住居宿泊	
スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質							3.4
Q1 室内環境			0.40				3.6
1 音環境		3.0	0.15	-	-		3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-		
1.1.1 1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-		3.0 3.0
1.1.1 2 設備騒音対策		-	-	-	-		0.0 0.0
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-		
1.2.1 1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-		3.0 3.0
1.2.1 2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-		3.0 3.0
1.2.1 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		3.0 3.0
1.2.1 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		3.0 3.0
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-		3.0 3.0
2 温熱環境		4.0	0.35	-	-		4.0
2.1 室温制御		3.8	0.50	-	-		
2.1.1 1 室温設定	設定温度夏25℃、冬22℃	4.0	0.38	3.0	-		4.0 3.0
2.1.1 2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-		0.0 0.0
2.1.1 3 外皮性能	ダブルスキン	5.0	0.25	3.0	-		5.0 3.0
2.1.1 4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-		3.0 0.0
2.1.1 5 温度・湿度制御		-	-	-	-		0.0 0.0
2.1.1 6 個別制御		-	-	-	-		0.0 0.0
2.1.1 7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-		0.0 0.0
2.1.1 8 監視システム		-	-	-	-		0.0 0.0
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-		3.0 3.0
2.3 空調方式	床吹出し空調の採用	5.0	0.30	3.0	-		5.0 3.0
3 光・視環境		3.6	0.25	-	-		3.6
3.1 昼光利用	中効率2.5%	5.0	0.30	-	-		
3.1.1 1 昼光率		5.0	0.60	3.0	-		5.0 3.0
3.1.1 2 方位別開口		-	-	3.0	-		0.0 0.0
3.1.1 3 昼光利用設備	ライトシェルフ	5.0	0.40	3.0	-		5.0 3.0
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-		
3.2.1 1 照明器具のグレア		-	-	-	-		0.0 0.0
3.2.1 2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-		3.0 3.0
3.3 照度		3.0	0.15	-	-		
3.3.1 1 照度		3.0	1.00	3.0	-		3.0 3.0
3.3.1 2 照度均斉度		-	-	-	-		0.0 0.0
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-		3.0 3.0
4 空気環境		3.4	0.25	-	-		3.4
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-		
4.1.1 1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-		3.0 3.0
4.1.1 2 アスベスト対策		-	-	-	-		0.0 0.0
4.1.1 3 ダニ・カビ等		-	-	-	-		0.0 0.0
4.1.1 4 レジオネラ対策		-	-	-	-		0.0 0.0
4.2 換気		3.0	0.30	-	-		
4.2.1 1 換気量		3.0	0.33	3.0	-		3.0 3.0
4.2.1 2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-		3.0 3.0
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-		3.0 3.0
4.2.1 4 給気計画		-	-	-	-		0.0 0.0
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-		
4.3.1 1 CO <sub>2</sub> の監視	CO <sub>2</sub> 監視装置	5.0	0.50	-	-		5.0
4.3.1 2 喫煙の制御	全館分煙	5.0	0.50	-	-		5.0
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.0
1 機能性		3.5	0.40	-	-		3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-		
1.1.1 1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-		3.0 3.0
1.1.1 2 高度情報通信設備対応		4.0	0.33	3.0	-		4.0 3.0
1.1.1 3 バリアフリー計画		4.0	0.33	-	-		4.0
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-		
1.2.1 1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-		3.0 3.0
1.2.1 2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース設置	5.0	0.33	-	-		5.0
1.2.1 3 内装計画		4.0	0.33	3.0	-		4.0 0.0
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		3.0
1.3.1 2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		3.0
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31	-	-		2.9
2.1 耐震・免震		3.2	0.48	-	-		
2.1.1 1 耐震性		3.0	0.80	-	-		3.0
2.1.1 2 免震・制振性能	制振装置の導入	4.0	0.20	-	-		4.0
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-		
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-		4.0
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-		3.0
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-		3.0
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-		3.0
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-		3.0
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-		3.0

図 I 2.14 スコアシート画面(1/2)

(2010年版)

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			2.2	0.19	-	-	
	1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	1.0
	2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	1.0
	3 電気設備		3.0	0.20	-	-	3.0
	4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	3.0
	5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	3.0
3 対応性・更新性			2.6	0.29	-	-	2.6
3.1 空間のゆとり			3.0	0.31	-	-	
	1 階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	3.0
	2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	3.0
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	3.0
3.3 設備の更新性			2.0	0.38	-	-	
	1 空調配管の更新性		2.0	0.17	-	-	2.0
	2 給排水管の更新性		2.0	0.17	-	-	2.0
	3 電気配線の更新性		1.0	0.11	-	-	1.0
	4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	3.0
	5 設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-	1.0
	6 バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	3.0
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		ビオトープ	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1 地域性への配慮・快適性の向上		3.0	0.50	-	-	3.0
	3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地内緑化	4.0	0.50	-	-	4.0
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
	2.1 自然エネルギーの直接利用		-	-	-	-	3.0
	2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	1.00	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		ERR=17.1	ERR=17.1	4.0	0.30	-	4.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
	4.1 モニタリング	BBMSの採用	4.0	0.50	-	-	4.0
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	3.0
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
	1.1 節水		3.0	0.40	-	-	3.0
	1.2 雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-	4.0
	1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用施設あり	4.0	0.67	-	-	4.0
	2 雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.63	-	-	3.2
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	3.0
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	3.0
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントの採用	4.0	0.20	-	-	4.0
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	3.0
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	3.0
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	3.0
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	3.0
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	3.0
	1 消火剤		3.0	0.33	-	-	3.0
	2 断熱材		3.0	0.33	-	-	3.0
	3 冷媒		3.0	0.33	-	-	3.0
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		積極的なエネルギー対策	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	3.0
	2.2 温熱環境悪化の改善	敷地内緑化	4.0	0.50	-	-	4.0
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	3.0
	1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-	0.0
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	3.0
	3 交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	3.0
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	3.0
	1 騒音		3.0	1.00	-	-	0.0
	2 振動		-	-	-	-	0.0
	3 悪臭		-	-	-	-	0.0
3.2 風害・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	3.0
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	3.0
	2 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	3.0
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	3.0
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	3.0

図 I.2.15 スコアシート画面(2/2)



# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE柏 (2010年版) ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

【表示内容】

1 建物概要

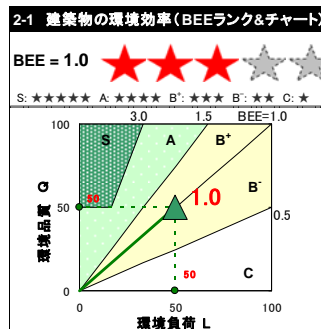
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 予定	評価の実施日	2010年7月8日
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	作成者	〇〇
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	確認日	2010年7月10日
延床面積	15,000 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

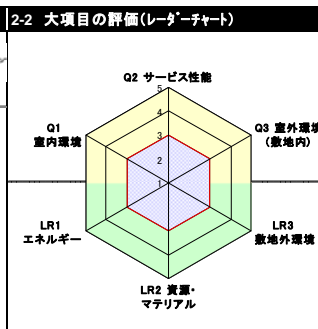
2 CASBEE の評価結果

2-1 BEE(Q/L)の

評価結果

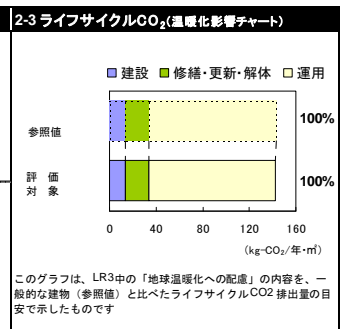


2-2 レーダーチャート



2-3 ライフサイクル CO<sub>2</sub>

(温暖化影響チャート)



2-4 バーチャート

・Q の評価結果

・LR の評価結果

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.0
LR 環境負荷低減性	LRのスコア= 3.0	
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

図 I.2.16 CASBEE 柏の評価結果表示シート①



評価結果

【表示内容】

1 建物概要  
 ・建物名称  
 ・総合評価の結果

2 重点項目への取組み度  
 ・K1~K3の評価結果を5段階表示  
 ・葉っぱピーの表情で3段階表示

3 中項目の評価  
 ・K1 1~2の評価結果  
 ・K2 1~2の評価結果  
 ・K3 1~2の評価結果

4 設計上の配慮事項  
 ・K1~K3の具体的な配慮内容

スコアシート  
 ・K1~K3の小項目の採点結果を一覧表示

■使用評価マニュアル: CASBEE 柏 (2010年版) ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

1 建物概要			
建物名称	〇〇ビル	BEEランク	B+
★★★★☆			
2 重点項目への取組み度			
重点項目	取組み度	得点※/満点	評価
K1 地球環境にやさしい社会をつくる		4. 1 / 5.0	すばらしい
K2 うるおいのある景観をつくる		3. 0 / 5.0	ふつ
K3 安全で健康な生活環境をつくる		2. 5 / 5.0	がんばろう
※ 対応するCASBEEのスコアと主な指標を元に、独自に設定された条件で評価をします。	評価 凡例	すばらしい 4点以上	ふつ 3点以上
		がんばろう 3点未満	
3. 中項目の評価(バーチャート)			
柏市の重点項目			
K1 地球環境にやさしい社会をつくる	K2 うるおいのある景観をつくる	K3 安全で健康な生活環境をつくる	
4. 設計上の配慮事項			
K1 地球環境にやさしい社会をつくる	スコアシート		
注) 「1. 省エネ型まちづくり」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	1. 省エネ型まちづくり		
	1.1 建物の熱負荷抑制	スコア	4.0
	1.2 自然エネルギーの利用	スコア	5.0
	1.3 設備システムの高効率化	スコア	4.0
	1.4 効率的な運用	スコア	3.0
注) 「2. 循環型まちづくり」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	2. 循環型まちづくり		
	2.1 雨水利用・雑排水再利用	スコア	5.0
	2.2 雨水排水負荷抑制	スコア	3.0
	2.3 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.0
	2.4 廃棄物処理負荷抑制	スコア	5.0
K2 うるおいのある景観をつくる	スコアシート		
注) 「1. 緑豊かなまちなみ」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	1. 緑豊かなまちなみ		
	1.1 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
注) 「2. 魅力ある景観」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	2. 魅力ある景観		
	2.1 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.0
	2.2 水空間の創出	スコア	-
	2.3 道路沿いの緑化	スコア	-
		・取組のいずれかを実施している	
		・沿道からの緑視率が25%以上ある	
K3 安全で健康な生活環境をつくる	スコアシート		
注) 「1. 健康な暮らし」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	1. 健康な暮らし		
	1.1 空気質環境	スコア	2.0
	1.2 バリアフリー計画	スコア	2.0
注) 「2. 安全な暮らし」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	2. 安全な暮らし		
	2.1 耐震・免震	スコア	3.0
	2.2 防犯対策	スコア	-
		・用途毎に(1)~(3)の基準を満たしている。	

図 I.2.17 CASBEE 柏の評価結果表示シート②

## PART II 採点基準

## ● 凡例

---

建物用途名	適用	適用外
事務所	事	事
学 校	学	学
物 販 店	物	物
飲 食 店	飲	飲
集 会 所	会	会
病 院	病	病
ホ テ ル	ホ	ホ
集合住宅	住	住
工 場	工	工